

災害を想定し合同防災研修会

災害時の団体・企業との連携を強化

大規模災害時における食料品の提供や道路の応急復旧などのために、市と応援協定を結んでいる事業所との合同研修会が1月22日、消防防災センターで行われました。

研修会には、宮城県建設業協会登米支部をはじめ、多くの団体に参加し、災害時の防災対策などを研修しました。布施市長は「登米市としては、災害に備える仕組みや、防災体制の整備を図っている



「災害時には皆さまの協力が不可欠」と述べる市長

ところではありますが、災害発生時は、行政が対応しきれない場合もあります。そのような場合に円滑に活動できるように、今日参加いただいた皆さまと連携し、なお一層の防災体制の構築に努めていきたい」とあいさつを述べました。

研修会では、「宮城県沖地震の再来に備えて」と題して県危機対策課の村上正勝主任主査、「企業における緊急時企業存続計画の必要性について」と題し、県商工経営支援課の吉田司主任主査、両講師による講演が行われ、参加者は熱心に受講していました。

その後、佐沼・登米両警察署やN.T.Tなどの代表がパネラーとなり、災害時の事業所の役割などについて相互に意見を交換し、連携の強化を図りました。



地震の概要などを説明する村上講師



真剣なまなざしで講話を受講する参加者の皆さん

商品券に使う楽しみを

登米市共通商品券「とめっこマネー」抽選会

お楽しみ抽選券付き商品券で、市内の身近な店を利用してもらい、市内中小事業所の活性化を目的とする登米市共通商品券「とめっこマネー」の第2回抽選会が1月22日、市役所迫庁舎で行われました。

抽選されました。抽選後、市長は「自分で使った券で、思わぬご褒美が当たるといのは使う楽しみがあるし、地元で商品を購入することは、地産地消の意識の育成にもつながると思う」と述べ、また、振興協同組合の高橋理事長は、「全体の利用状況から見ると、個人での使用がまだ少ない状況にあるので、もっとPRをして皆さんに知ってもらい、利用率を上げていきたい」と、話していました。



布施市長や振興協同組合役員によって各賞が抽選されました

冬空に響くハーモニー

新田中学校全校生徒による「歓喜に寄すを歌う会」



オープニングでは新田小学校児童が合唱を披露

新田中学校の全校生徒が冬空の下、合唱を行う「歓喜に寄すを歌う会」が12月18日、新田小学校中庭で開催されました。

これは、合唱を通して新年への希望や目標を新たに



冬の澄み渡る空に、美しいハーモニーが響きました

することを目的に平成2年度から開催され、今年度で19回を数える新田地区の冬の恒例行事になっています。イルミネーションで彩られた会場では、オープニングとして新田小児童が合唱を披露した後、歌う会が開催され、全体合唱では「手紙」や「大地讃頌」、「歓喜の歌」などを熱唱。冷え込みが厳しい中、生徒たちは寒さに負けず美しいハーモニーを奏でました。また「ベートーベンと第九」、「歓喜に寄す」の朗読を代表者が「月光」の伴奏に合わせ、力強く読み上げました。会場には、保護者や学校関係者、地区住民などが訪れ、冬の夜空に響く生徒たちの歌声に聞き入っていました。

決意を新たに安心安全を誓う

消防団員、交通安全・防犯指導隊出初め式

市消防出初め式が1月4日、消防防災センターで消防署と消防団合同で実施され、9支団の団員や市関係者ら約980人が参加しました。

職員や各支団の団員は、人員報告後、観閲行進を実施。センター前での行進では、遠藤署長の指揮のもと規律正しく行進を行い、布施市長が観閲しました。

市長は「市では災害の軽減対策を最重要課題と位置付け



消防団員による規律正しい行進が行われました



ポンプ車18台による一斉放水訓練



交通安全指導隊員一人一人の服装を点検する市長

災害に強い町づくりを進めています。本日の消防出初め式を契機として、一段と心を新たにし、皆さまとともに火災予防と防災意識の周知に努め、本年こそ災害が少ない一年でありますようご祈念いたします」とあいさつしました。

全指導隊の出初め式が1月10日、中田総合体育館でそれぞれ開催されました。式には、市内各地区の防犯指導隊員79人、交通安全指導隊員82人が参加しました。式では、隊員全員が大きな声で点呼。服装点検や市長告辞、各隊長からの訓示などが行われました。参加した隊員は、安心して住むことのできる安全なまちづくりに向けて、決意を新たにしました。